

全仏通信

六月号
発行所 財団法人
全日本仏教会
東京都中央区築地
三ノ一(本願寺内)
電話 四二九六九
四〇三三三
振替東京 三六〇〇
発行人 阿部電伝
編集者 伊東聖純
印刷所 ルビニ社

仏教の近代化の組織化を 第九回全仏講習会

七月三、四日札幌市で開催

既報のとおり、来る七月三、四日の両日にわたって、北海道札幌市の大谷会館を会場にして、「第九回全仏講習会」を左記のとおり開催することになったが、茲にその主旨とする点について見た。

記

一、期日 七月三、四両日
一、場所 札幌市南三、西一 大谷会館

一、講師と演題
否定即肯定の宗教
——真空妙有について——

大谷大学教授 舟橋一哉氏
文学博士 舟橋一哉氏
未定
神田寺主管 友松円謙氏
新興宗教の実態について
元文部省宗務課
専門員 井上恵行氏
法学博士 井上恵行氏
日本文化と仏教

早稲田大学教授 仁戸田文雄博士 六三郎氏
新しい寺院の社会教育活動に

新興宗教恐るに足らずと自負していたが、また或る意味において動揺はかくせない。

今日、仏教教化の聖職にあるお互いが、この創価学会をあらためて批判の段階から反省の体制に変わって来た事も亦過言ではない。然し何ら恐るに足りないことを確言する、何故か。

創価学会は仏教の教理に於ては物の数に入らないからである。では何が今日各界各層に動揺と反省をもたらしめたか。

これ即ち組織力あるのみである、組織力こそ、各界各層における現実であろう。

仏教者は一体となつてこの組織力を結集すべきである、全仏は仏教人口の組織化を強力に押し進めた、そして生れた日本仏教文化

会議がそれである。諸賢よ、そして更にこれに加えて仏教徒の近代化であろうと思料する、今此所に全仏講習会の意義がある。先ずお互い仏教者は之の講習会に参画すべきである。

仏教の真理探求の一面に舟橋講師は之れを指示する。井上講師は新興宗教創価学会、及立正交正会を始めとして新興説を各面から説かれるだろう。近代化の面に仁戸田講師は亦解明する、仏教者の社会活動に就て具体面を伊藤講師が指示するだろう。

現代社会に於ける仏教の役割を、解明し、その近代化と組織活動を推進する。

この緊急問題解決が使命である全国の諸賢よこの意を体してこの教法開展の会に進んで参加せられんことを。

地域仏教会との研修会

北海道旭川市と富良野町でかねて全仏は地域仏教会との研修会を実施して来たが一足飛びに北海道の未開拓地区に実施することに決定した。左記の通り

一、主催 財団法人全日本仏教会
旭川仏教会
旭川竜谷学園
六月三十日午後二時
二、日時 旭川市公会堂
三、場所 旭川市公会堂
四、講師と議題 仏教者の社会活動の具体面

早大教授 伊藤道機氏
未定 石田瑞磨氏
東大講師 (交渉中)

一、主催 財団法人全日本仏教会
二、日時 七月一日午後一時
三、場所 富良野町 興仁寺
四、講師と議題 仏教者の社会活動の具体面
早大教授 伊藤道機氏

タルマパーラ 生誕百年祭 記念事業賛助要項

- 一、趣意 印度大菩提会創立者、故アナガリカ・タルマパーラの生誕百年を記念し、仏教文化センターの建設、タルマパーラ著作選集の発行等の事業を行うため、印度大菩提会内に設けられた、タルマパーラ生誕百年祭委員会に協力し、国際仏教親善と、印度の仏教復興に寄与するためである。
- 二、事務分掌 此の事業を賛助するため、財団法人全日本仏教会に事務所を置き、連絡、企画、募金等に関する事務は、国際局、経理事務は総務局において所掌する。
- 三、賛助事業
 - (1) 昭和三十九年九月十七日東京におけるタルマパーラ生誕百年祭記念法要及び大集会の開催。
 - (2) 昭和三十九年十一月下旬、印度において開催予定の第七回世界仏教徒会議における記念祭に日本代表の派遣。
 - (3) カルカッタに建設される仏教文化センター募金への協力。
 - (4) カルカッタに建設される仏教文化センターに日本仏教ルームの設置。
- 四、賛助募金の目標と対象

総額 一、五〇〇万円

内訳

 - 一、四〇〇万円 (東南アジア関係貿易商社)
 - 二、一〇〇万円 (加盟団体、有力寺院、一般仏教徒)
- 五、募金の期間 昭和三十九年五月より一ケ年間、但し達成目標を十一月とする
- 六、賛助事業の経費 所費実費は募金の一部を限度とし、その使途については財団法人全日本仏教会常務理事会の承認を得て実施する。
- 七、全仏協会の協力を以て、感謝状をおくる。
- 八、募金の方法 協力会の結成をなす。また一般仏教徒に対しては募金袋趣意書の作成及び貿易商社の募金に対しては、大蔵省の免税措置の申請、経団連、国際貿易振興会等の協力を得ること。

全仏常務理事会で決定

ダルマパーラ記念事業に協力

全仏38年度決算、デンマーク派遣団も

全仏常務理事会は五月十三日午前十時二十分から同十二時三十分迄に亘り、東京築地レストランサボイ会議室で開催され、左記議案について協議された。

議案

- 一、昭和三十八年度事業報告及決算報告書について
- 二、ダルマパーラ生誕百年祭協力会規程案について
- 三、デンマークへ全仏代表団派遣について

まず阿部総務局長が開会を宣し金剛常務理事が議長に就任し第一号議案が上程され、伊東総務部長が詳細に亘って説明、上野、鶴飼両常務理事から若干の質問があったが、別案掲の原通り決定承認を得た。ついで第二号議案が上程され、中山国際局長、柳同部長が夫々説明したが、原案の協力が規定(案)は不適当と思われ、個所も多々見つけられるので必要以外の条項をすべて除いて修正した上で発表すべしと云うことで、内容的には万場一致の賛成を得た。なお献金された各位へは全仏会長名による感謝状をおくることになっている。(修正した同協力会記念事業賛助要項は別掲のとおり)

第三号議案が上程され、岩野文化局長及中山局長より従来の経過について説明があり、別所文化部長より当日まで決定済みの各代表の氏名を発表し、承認を得た。また全仏からの贈呈品である大蔵経の拠出金三十万円についても了承した。なお全仏事務局から麻布事務局長、阿部総務局長、別所文化部長、岩本組織部長の四名が代表団に加わることに決定了承された。

なおその他の事項については、農地解放者同盟の三宅桂仙師が来席し、細島同盟会長の招集による八名の国会議員による小委員会が活躍しているため、全仏として感謝状をおくるなど感謝の意を表されたいと要望あり、これも全員異議なく承認した。なお署名委員は大田淳昭、金子弁浄の両常務理事、当日出席者は、金子弁浄、金剛隆玄、阿部竜伝、上野頼栄、宮崎文輝、山本杉の各常務理事(順不敬略)外に委任状三通。当局から麻布事務局長、岩野文化局長、黒田組織局長、別所、岩本、伊東、柳各部長、各局主事が出席した。

一八六四年九月十七日(元治元年)セイロンに仏教復興の偉材、アナガリカ・ダルマパーラが生れた。

十六世紀のはじめ、ポルトガル人が、コロンボに来て侵略者として惨酷なカトリック強制を行って以来、オランダ、イギリスにセイロン支配のバトンは受けつがれ、三百五十年に亘る強力なキリスト教の圧迫にあつて、アジョーカ王時代王子マヒンダ長老によつて二千二百年の昔に仏教を受容し、仏陀涅槃の年を以て建国の年と誇る南方戒律仏教(テーラワダ)の総本山たるセイロンの仏教は真に危殆に瀕したのである。コロンボ市郊外コルピテイヤの素封家の長男に生れたダルマパーラは、若くして仏陀に帰依し当時セイロンに立ち上った偉大なる熱血の仏者グナーナタ長老の憤起をつぎ、世界的規模に於てセイロン仏教を振立たせ、更に印度の仏教復興、殊に壊滅に瀕した印度仏跡の復興にその全身霊全を捧げた。ダルマパーラは父祖からついで莫大な財産を悉く仏教のために費し、自ら生誕地と不滅の文庫を以て七十年の一生を仏陀につかえて燃やし尽したのである。

本年は、アナガリカダルマパーラの生誕祭がセイロン及び印度で行われる。殊に印度ではネル首相が後援し、ダルマパーラが熱血の生涯を捧げた印度仏跡の復興を記念し、アジア仏教国巡礼者の拠

ダルマパーラ生誕記念事業として

カルカッタ国際仏教文化センター建設についてお願い

点として、ダルマパーラが一九一五年に創立したカルカッタの印度大菩提会の旧建物を改増築し、仏教を現代に生かす新様式の国際仏教文化センターを以て、威容を整えることになっている。新しいプランでは予算二百萬ルピー(一億五千二百万円)で、仏堂、講堂、会議室、図書館並びに百人乃至百五十人の巡拝者が宿泊出来る簡易ホテル風の個室が計画されている。

一九五〇年にセイロンで第一回世界仏教徒会議が開催されて以来、日本から多くの僧侶によつて印度仏跡巡拝団が送り出されているが、最近為替関係の好転に伴い、巡拝団が益々盛んになる傾向を示しているのは、我国の文化水

準向上のため誠に慶賀にたえない。それにつけても、英国支配の間に、全く荒廃に帰した印度仏跡を復興するために、一生を捧げたダルマパーラ百年祭の記念事業たるカルカッタの国際仏教文化センターの建設に対し、我々は国力に応じて寄附することを忘れてはならぬと思う。日本の寄附はアジア各国の仏跡巡拝者によつて深く感謝されることである。これは東南アジアに対する国民外交の一石とも云うべきである。

年(一九三三年)に艱難辛苦の護法の生涯を終るまで影の形にそうが如くに仕えたのであった。ダルマパーラ師の没後は、師の遺言した国際仏教普及の大事業を継ぎカルカッタの大菩提会にいて、ルンビニ、ブダガヤ、サルナト、クシナガラ始め、各仏跡の大復興につとめ、アジア各地からの巡拝者の世話に献身しているのであります。戦後我国に逐年増加する印度仏跡巡拝の各位は、先ずカルカッタの大菩提会でヴァリシンハ氏の好意をうけた経験を御忘れにならないことであろうと思う。氏は各位が大菩提会々員に加入してその仏教運動を応援して下さいに感謝している。

今回は、本年のダルマパーラ師の生誕百年の記念年間に際し、一億五千余万円の募金を得て、カルカッタにおける国際仏教文化センターの完成をめざし、永遠にアジアのホープたる日本仏教界の協力を願っております。実に氏は老来いよいよ世界平和に欠くべからざる仏法久住の念願に燃え、宿痾を犯して来日した次第であります。何卒普く日本仏教僧俗各位の御共感を切に御願ひ申し上げます。昭和三十九年五月 敬 具 東京都中央区築地三ノ一(本願寺内) 財団法人 全日本仏教会

昭和 38 年度財団法人全日本仏教会
歳 入 歳 出 決 算 書

| | |
|-------|--------------|
| 歳 入 | |
| 1 金 | 9,265,000 円 |
| 1 金 | 9,055,616 円 |
| 歳入予算額 | |
| 歳入決算額 | |
| 歳 出 | |
| 1 金 | 9,265,000 円 |
| 1 金 | 9,038,458 円 |
| 1 金 | 17,158 円 |
| | 17,158 円 |
| | 175 円 |
| | 銀行預金(39年度繰越) |
| | " (退職積立金) |
| | 歳出予算額 |
| | 歳出決算額 |
| | 歳計剰余金 |

昭和 38 年度財団法人全日本仏教会
歳 入 歳 出 決 算

歳 入 の 部

| 科 目 | | | 予 算 額 | 決 算 額 |
|---------|-------|---|-----------|-----------|
| 款 | 項 | 目 | | |
| 負 担 金 | | | 7,380,000 | 7,120,700 |
| | 宗派負担金 | | 6,280,000 | 6,381,500 |
| | 団体負担金 | | 1,100,000 | 739,200 |
| 寄 付 金 | | | 400,000 | 300,000 |
| 未納徴収金 | | | 500,000 | 429,000 |
| 基金果実 | | | 35,000 | 35,350 |
| 雑 収 入 | | | 300,000 | 523,664 |
| 引 継 金 | | | 50,000 | 46,902 |
| 特別会計繰入金 | | | 600,000 | 600,000 |
| 歳 入 計 | | | 9,265,000 | 9,055,616 |

歳 出 の 部

| 科 目 | | | 予 算 額 | 決 算 額 |
|-------|-------|-------|-----------|-----------|
| 款 | 項 | 目 | | |
| 事務総局費 | | | 5,262,833 | 5,258,093 |
| | 人 件 費 | | 3,052,833 | 2,962,705 |
| | | 職員俸給 | 1,982,000 | 1,958,000 |
| | | 諸 給 | 832,000 | 789,768 |
| | | 厚生費 | 170,000 | 146,104 |
| | | 退職積立金 | 68,833 | 68,833 |
| | 事 務 費 | | 1,110,000 | 1,196,664 |
| | | 借館借室費 | 300,000 | 300,000 |
| | | 通 信 費 | 400,000 | 397,590 |
| | | 消 耗 費 | 50,000 | 49,775 |
| | | 光 熱 費 | 20,000 | 0 |
| | | 備 品 費 | 170,000 | 277,765 |
| | | 印 刷 費 | 150,000 | 149,860 |
| | | 雑 諸 費 | 20,000 | 21,674 |
| | 旅 費 | | 500,000 | 498,724 |

| | | | |
|---------|------------|-----------|-----------|
| | 旅 費 | 500,000 | 498,724 |
| 関西事務局費 | | 600,000 | 600,000 |
| | 関西事務局費 | 600,000 | 600,000 |
| 総務局費 | | 1,461,000 | 1,411,518 |
| | 会 議 費 | 741,000 | 703,245 |
| | 理事会費 | 81,000 | 69,500 |
| | 評議員会費 | 110,000 | 107,040 |
| | 各種委員会費 | 200,000 | 191,535 |
| | 会 議 費 | 350,000 | 335,170 |
| 共通事項処弁費 | | 220,000 | 213,640 |
| | 共通事項処弁費 | 220,000 | 213,640 |
| | 調査研究費 | 200,000 | 195,238 |
| | 調査研究費 | 200,000 | 195,238 |
| | 渉 外 費 | 300,000 | 299,395 |
| | 渉 外 費 | 300,000 | 299,395 |
| 組織局費 | | 1,480,000 | 1,473,162 |
| | 組織強化費 | 870,000 | 791,711 |
| | 組織強化費 | 250,000 | 198,816 |
| | 国内仏教徒会議費 | 620,000 | 692,895 |
| 教 化 費 | | 180,000 | 224,820 |
| | 講習会費 | 100,000 | 157,190 |
| | 教化諸費 | 80,000 | 67,630 |
| 弘 報 費 | | 430,000 | 456,631 |
| | 機関紙発行費 | 380,000 | 419,806 |
| | 宣伝報道費 | 50,000 | 36,825 |
| 文化局費 | | 470,000 | 384,817 |
| | 文化運動費 | 470,000 | 384,817 |
| | 文化会議費 | 100,000 | 12,940 |
| | 資料作成費 | 10,000 | 0 |
| | 時局対策処理費 | 360,000 | 371,877 |
| 国際局費 | | 500,000 | 458,622 |
| | 国外運動費 | 500,000 | 458,622 |
| | 海外仏教使節接待費 | 170,000 | 162,160 |
| | 世界仏教徒文化交流費 | 100,000 | 67,360 |
| | 国際仏教運動費 | 230,000 | 229,102 |
| 雑 費 | | 60,000 | 52,246 |
| 予 備 費 | | 31,167 | 0 |
| 歳 出 計 | | 9,265,000 | 9,038,458 |

上記の通り決算報告致します。

昭和 39 年 4 月 22 日

財団法人 全日本仏教会

理事長 訓 綱 信 雄 印

監査の結果、証憑も完備し収支が適正に行なわれていたことを認めます。

昭和 39 年 4 月 22 日

財団法人 全日本仏教会

監 事 藤 川 博 印

監 事 長 岡 慶 信 印

監 事 萩 原 大 登 印

日本仏教文化会議創立す

第3回仏教文化東京会議も開催

日本仏教文化会議の創立と

第三回仏教文化東京会議開催
既報の通り全仏文化局が中心となつて企画した「日本仏教文化会議」の発会式が、五月一日午後一時より東京神田、学士会館に於て「第三回仏教文化東京会議」を兼ねて盛大に行われた。

当日は先づ「日本仏教文化会議」の創立総会から開催され経過報告と趣意説明加えて規約案説明について増永靈鳳運営委員より事業計画案などの発表を行い全て原案通り之れを可決役員選出に移った。

なお当面の事業計画は、六月二十鳩の京都、同二十一日の金沢、ついで仙台、名古屋、その他各地区で仏教文化会議を開催し、その研究討議を通じて、現代社会の当面する諸問題について仏教徒としての実践方向を確立し、活動に踏み込まんとするものである。

- 議長 副議長
- 鈴木大拙文学博士
 - 東北大学総長石津照爾氏
 - 東京大学文学部長 中村 元氏
 - 京都大学名誉教授 羽溪了諦氏
 - 九州大学名誉教授 干潟電祥氏
 - 東京大学名誉教授 宮本正尊氏
- の諸師が選出され万場一致可決され、続いて当日御出席の議長鈴木大

拙氏並びに羽溪副議長、宮本副議長の就任挨拶が行われた。

鈴木議長挨拶要旨

仏教が世界文化に貢献するためには仏教徒自身の各方面に渉る研鑽が先づ第一である。欧米の文化はキリスト教が広く基盤となつて行き渡っているが、いかんながら仏教は、この点に於いて立ちおくれ



写真は東京教育大学唐沢先生の講演のもよう

て居る感がある。是非之の日本仏教文化会議が中心となつて、世界的視野の中で、仏教文化の世界的宣揚に努めて欲しい。

と披露され、

羽溪了諦副議長からは、私は京都で仏教文化会議を司会した録から、この様な意義深い催しを永続的なものにしつたいと兼ねかね念願していた。その意味からも今回日本仏教文化会議が創立され

たことは喜ばしいことである。老令にむちうって大いに精進したい。

と挨拶され、

宮本正尊副議長からは、何ごとも先づ努力し研鑽しなくては進歩はない。いかなる世界の日進月歩から、仏教はおくれがちであったが、これは決して仏教の卓越せる思想とは無関係である。これを明らかにするのが日本仏教徒の努めであり、若し日本仏教徒がやらなければ、世界のどこかの仏教徒がやるだろう。それ程に機は熟して居る。黙視して居るわけにはいかぬ。

と語り続いて全仏会長高階電仙

老師より

現代の仏教は僧俗一体の性格を持ち、宗派間の理解と寛容に立脚した全一仏教的なものでなければならぬ。亦今後の仏教は、科学哲学と矛盾せず、これを抱擁した世界の視野に立たねばならぬ。と挨拶され創立総会を終了した。猶本日迄の申込議員を百五十名と発表され奮って参加を事務局より要請された。

続いて第三回仏教文化会議を開催、議題として特に今日関心が持たれている道德教育の問題をとり上げ、去る三月末文部省が各小中学校道徳教育担当教諭に配布した「道徳教育の指導資料」について「東京教育大学教授文学博士、唐沢富太郎氏、品川区立旗の台小学校教諭、佐藤暉夫氏の両講師の意見発表を聞き参会者有志による質疑応答式の意見交換があった。

唐沢教授の話

私は世界四十数ヶ国の教科書を集めて、そこにとの様な理想的な

人間像が呈示されているかを、日本の現状と比較して研究した。一口に云つて欧米の価値体系はキリスト教が基盤として確立しており、これに反して日本では、宗教が教育の面で全く無視され、したがって価値体系が全然出来上っていないと云うことが出来る。ルース・ベネディクトの「菊と刀」日本文化の型に「ヨーロッパ・アメリカは罪の文化、日本の文化は恥(ハジ)の文化である」と指摘していることは、鋭くその特質をついたものと思う。道徳教育は宗教教育がその根本にならなければならぬ。現在一番問題になつて

いる道徳教育の内面化は、単に教育基本法にうたつてあるヒューマニズムだけでは実現出来ない、相對世界の道徳を、絶体世界の宗教によって裏づけするとき、はじめ価値の体系化が可能となるのである。この相對の世界に絶体が顕現する。「証上の修」―「修上の証」を説く仏教は、実に偉大な哲学である。この仏教に裏づけられた東洋的ヒューマニズムこそ、現代世界の昏迷を救うものではないだろうか。いま「道徳教育の指針」一つを見ても、宗教家が一人も出ていないことは遺憾である。諸外国を廻つて見ても、無宗教などと言う人間は、人間扱いをされていない。社会全体のの中に、宗教は着実に生きて居る。日本にも、これを推進し復活させることは必ずしも、むづかしいとは思われない。その方途は、仏教徒の一人一人が、もし親鸞、道元、日蓮などの宗祖が現代に生きていたら、先づ何をなさるだろうか―とふりかえて見るとき、おのずから明らかになると思う。

佐藤教諭の話

現在週一時間、年間四十一時間の道徳の時間、とかく他もの学科に喰われてキチンとやっている学校は少ない。之れを心配して文部省はこの「道徳教育の指針」を発行したのだと思う。これには各種の指導例があげられているが、ともかく混乱した教育の現場に、一つの指針を与えた点は有意義だと云えよう。然し、なお資料には多くの不満がある。私も又現場の教師として、さきの唐沢先生の意見に賛成だが、たしかに宗教心に対する配慮がなされていないことは事実だ。資料中では、光明皇后と津田梅子の項に少し乍らその面が見られるが、その他は全く見られない。せめて出てくる人の宗教的バックボーンだけでもとり上げて欲しかったと思う。私はある時「若き日の釈迦」という教材を、子供達によんで聞かせた。私のクラスは、余り静かなクラスではないが、そのとき子供達はシンとしていた。若き日の釈迦が命がけで法を求めたということ、諸行無常のうたの意味こそ、わかりにくかったと思うが、例え言葉や文学の上で、わからずとも、心にシンとくるものがあつたのだろう。このことは子供達の眼を見ればわかる。こんな立派な資料は、これ迄にも、いくらかもある。何故この様なものを活用しないのか、もとより教師にも責任がある。各宗派の開祖と、その宗派とを線で結ぶという簡単なテストでも、二十、三十代の先生で完全にできる人は、ほとんどない。まして、その宗派の説明などもつての外だ。これら※

全仏オリンピック対策協議会

礼拝寺院に長泉寺(曹洞)決定

英又日本仏教紹介書も近く具体化

去る三月二十六日開催された全仏「オリンピック対策協議会」において英文日本仏教紹介書の作成、礼拝寺院の指定などが諮問され、全仏では国際局が中心となつてこれが具体化をすすめていたが、日本仏教紹介書(英文)は然るべき仏教学者に翻訳を依頼し、九月までに出版することに決定し、目下着々と事務をすすめている。

なおオリンピック選手団などを対象とする、日本仏教礼拝寺院は選手村に最も至近距離にあり、本堂、庭園など完備した、曹洞宗長泉寺(東京都渋谷区神宮通り、柴田秀晃住職)に依頼し、同住職の快諾もあつて正式に礼拝寺院に指定することに決定し、その旨オリンピック組織委員会へ通知した。なお通訳の同寺への配置は、オリンピックのこの期間の間中、全仏から派遣する予定である。

なお五月二十九日午後一時から、東京築地本願寺特別室において、第二回オリンピック対策協議会委員会を開催し、諮問事項の具体化について種々協議した。

中国天台山から比叡山へ 法華経おくらる

中国の天台山国清寺から、我国天台宗本山延暦寺へこのほど法華経が贈られ、たまたま中国仏教協会の招請で訪中した、西川景文、大河内隆弘師らが受領して帰国し、五月七日午後四時より、東

京上野寛永寺においてこれら奉賛飯法要が、大照見道同門跡が導師となり厳かに開かれた。

式典にひきつづき別室で報告会が行われ、西川師は「四月七日に天台山国清寺へ大河内師らと一緒に招かれまして慈覚大師逝世一千年記念大法要に出席する機会を得ましたが、国清寺の澹雲法師が導師で、約四十名の僧侶による厳粛な雰囲気には、場なれしている私達も思わず随喜の涙を流した程でした。」と語り、終つて大河内師からも詳細な報告があつた。

当日は大照見道、西川景文、大河内隆弘、桜井栄栄、中濃教篤、壬生照順、落合寛茂、羽場慈温、阿純雄、塩入亮達、の各師が出席したが全仏からも柳部長、鎌田、古宇田主事が夫々出席した。

なお五月十四日午前十時から、比叡山大講堂において、即真天台座主親下導師により、一山僧侶出席で盛大なる奉賛法要が行われ、中国から奉持した法華経は西川師から即真座主親下に正式に手渡された。

中華民国から 尼僧二人来日予定

日本仏教尼僧、婦人らと交歓するため、全仏の招請により来る七月中旬に中華民国から二名の尼僧が来日することになった。

この人達は基隆市海会寺監院の釈仁光師と同寺住職釈修果師の二人で、約一ヶ月に亘り滞在し、そ

の間日本仏教各宗本山も訪れることになっている。

日韓仏教徒の交流

今秋実現のはこび

韓日両国の仏教による親善は以前から盛んに叫ばれていたが、このほど韓国ソウル特別市の建国大学教授朴延三氏が全仏国際局をおとづれ、種々柳部長らと懇談し局議を経た結果、近々両国仏教徒(主として婦人)の交歓が実現されることになった。

それによると韓国の弘益仏教婦人会幹部五名が先づ訪日し、二週間滞在し、全仏、全日仏婦、仏青らと懇談し或は各宗大本山を訪れ親善増進につとめ、同代表団が帰国の上はあらためて全仏派遣で日本仏教婦人を主とする代表が訪韓し親善を深めると云うもので、戦後初のケースとして今から大いに期待されている。

辻本昇氏にきく

ブラジル仏教の前途

ブラジル仏教徒協議会代表の辻本昇氏は去る四月二十八日空路帰国したが、四月三十日全仏事務局を訪れ、「ブラジル仏教の現在と将来」について次のように述べた。

ブラジルには現在、東西両本願寺、曹洞宗、高野山真言宗、浄土宗、日蓮宗、仏立宗などが、米國開教に遅れること三十年ではあるが、熱心に布教に従事している。約五十万の日系人の中で十七万八千人が仏教信徒と云われている。しかし近年はPL教団、生長の家、創価学会、大本教、天理教などが続々と開教にやつて来て開教に力を注いでいるが、仏教々々と比較

すれば、その数も微々たるもので、レクリエーションから入信へ導いている初步的段階である。ブラジルはカトリック教を準国教としている国柄であり、この国で仏教を宣布するには、国家の成り立ちから国民感情をよく理解してかからねば失敗すると思う。

これからの日本仏教の発展する道は、従来日系人一世だけにしていた布教を、深く二世、三世に浸透させるよう努めることであり、その良策としては、開教使は積極的に二世三世の家庭に入り、家庭における仏教教育育成に努めることが肝心である。この活動が徹底することによってキリスト教のチャーチに向ける、若い人々の足を、寺へ向けることが出来ると思

ブラジル仏教寺院は一般社会と照してみても、かなり安定した経済状態におかれており、日本のように墓地が寺有になってはおらず全部市の経営になっている。寺の収入は法要、布教の布施などで充分やうに行ける現状である。しかし、彼等は夫々日本の本山に少なからず依頼しており、彼等のバックボーンとなつて、教材などの援助と緊密な連携をつよく望んでおるようである。私はある程度、開教使の入れ替え、輪番制も各宗発展の上でのぞましいことではないかと思つている。

カトリックは仏教と同時に儀式を重んじる宗教であり、こうした共通点は仏教の将来に輝やかしい光明を与えらると思う。あとは開教使諸兄の努力いかんが、その前途を決定づけると信じている。

※は宗教に対する教師の無関心を示すものだが、一つ宗教家も教師養成機関の場その他で、一層の努力をお願いしたいと思う。この日本仏教文化会議が、これらの各方面で研鑽を積み、文部省による意味での圧力を加えるぐらい迄発展することを心から希んで止まない」と結ばれた。

猶最後に仏教文化東京会議参加者一同の申合せとして、インドで生れた仏教は、東洋文化引いては世界人類の上に大いなる華を咲かせて来た。一方科学文明の進歩は著しいものがあるが、これは一面人間性放棄の危機的様相を示している。人類普遍の道徳を真に道徳たらしめるものは仏教のすぐれた思想と実践にあることを信ずる我々は、こそつてこの時代的要請にマッチした活動を続けよう。

日本仏教文化会議

去る五月一日発会した日本仏教文化会議は左記に依り実施する。

- 一、日時 六月二十日午後一時より
- 一、場所 京都大学、楽友会館
- 一、議題 道徳と宗教交渉中につき決定次第発表
- 一、日時 六月二十一日午後一時より
- 一、場所 金沢市(未定)
- 一、議題 道徳と宗教交渉中
- 一、講師 石川県仏教会 梵人 会
- 一、協賛 梵人 会

埼玉県仏教会は、二千九百(正住寺院は千五百)の会員を擁して、市町村仏教会の数は六十支部「埼玉仏教」の機関紙(季刊)をもち、教化委員会、教誨師会、仏教保育協会、青少年教化協議会など、多角的な活動をしている。

今後は、市町村仏教会に檀信徒総代会(仏教徒連盟)を、いかにして作るかが宿題のようである。二、三の支部では、先駆的に、すでに総代会をこしらえて、講習会や寺めぐりを行なっている。寺族研修会を毎年開いている支部もある。仏青、仏婦の県単位のもはこれからということ。

埼玉の沿革

埼玉県仏教会が、生まれたのはたしか、大正五年前で、浦和市の玉蔵院住職木村秀雄氏(副会長)の懐旧談によると

「県庁うらの日赤の会議室で、埼玉自強会の総会があったときに来賓として出席した岡田知事が、坊さんは、法座の後で、さてといひ、川柳をひいて、何かといえ、すぐ寄付金をせびる僧侶の無為無能を皮肉った言葉に、憤慨した寺院の有志が、玉蔵院へ集まって、県仏を作った」と、いうことである。

この話の中に、でてくる自強会であるが、埼玉自強会というのは「更生保護事業をいとなむ収容施設」で、歴史も古く、明治二十三年の創立といわれる。昔の免囚保護事業で、県内の教誨師・住職有志が相計って設立し、会員網を全県下寺院にひろげて、社団法人となつたものである。こうした寺院組織が、すでに

きていたので、県仏の組織も、割合いたやすく、できたのであろうが、爾来、年額一円の会費が、なかなか集まらない歳もあって、役員は苦勞のしつづけ「県仏解散」の声も、でたことがあるさうな。しかし、自強会のつつかい棒にささえられて、とにかく迂余曲折はあったにしても、自強会・仏教会の二枚看板が、もちつもたれつで、今日まで、やってこられた訳である。

戦前は、仏教会長(御嶽隆道氏)と自強会長(須田貫孝氏)が別置されて、会費も宗派別に徴収されていたが、戦後は会長(倉持秀峰氏)が一本化された。事務所も自強会の事務所に同居、職員も兼任となり、一味乳水のうまさ、い

県仏の素描(上)

(埼玉県仏教会の場合)

となく發揮しているということができる。会費年額三百円は、地域支部の組織で徴収されている。

県仏の必要性

戦後、県仏教会の必要性を寺院に感じさせ、地域仏教会の有難味を感じさせた第一は、昭和二十一年の荒川大水害に対する救済募金である。約三百カ寺の水災をうけたところへ、県仏から、それぞれみまい金がおくられた。

第二は、配給物資の受入れ体制である。一口百円の仏教協同組合が結成された。埼玉県下二千九カ寺の内、半数の約千カ寺が加入して紙やロウソクの配給が行われた。

物資がでまわるようになると共に昭和三十年に解散したが、出資金には、ちゃんと利息をつけて全部返済された。

第三は、国有地境内地の無償譲与に際して、古文書による証明書を、仏教会が有効に発行して、寺院の便宜を計ったことである。これは境内地譲与に大変な役立ちをして、喜ばれもしたし、県仏の組織づくりにも好影響を与えた。

第四は、善男善女による各流ご詠歌の奉詠大会の開催である。昭和二十四年に第一回を開き、年中行事として続け、今年第十六回目の奉詠大会を迎えている。毎年一千人の参加者で、にぎわっており、仏教関係で信者を動員できる

堅教、三十年大久保堅瑞、三十一年は小笠原義雄の諸氏であった。発行部数一萬部。その後は中断されている。

第八は、おぼん・せがき用のトウバ板、ゴマ札を製作頒布する木工部(自強会)の設置である。これは、配給物資の協同組合の仕事が発展したもので、自強会に木工場を建設して、前歴者の職業指導の一端とすると共に、寺院の便宜を計る事業である。

仏教精神による良心的な製作指導から、良品が格安に販売されるので好評をよんでいる。製作本数に限界があるので、毎年、注文を若干は断っているもよう。県外はもちろん発送しない。仏教会の事務所に出入りする住職の大部分の用件は、トウバ板・ゴマ札のことであるが、ついでに相互連絡にも便利だし、相互理解にも役立っている。仏教会費の滞納者には、発送できないことになっているので会費徴収の一助にも、なっているわけである。

木工部の運転資金は、有力寺院の出資により、出資金に対しては毎年六分の配当金が、交付されている。

寺院共済組合

第九は、昭和三十年に創立された寺院共済組合である。これは、東京都仏教団の共済会を、まねてそのとおりの規約で、結成したものであるが、東京同様、順調にのびて、組合寺院の罹災に対する見舞金も、七カ寺へ、一六二万円を支払っている。

(以下次号)

高階会長

六月十日中国へ出発
全日本仏教会々長高階龍仙禪師は中国仏教協会の招きで、個人の資格をもって六月十日午前十一時羽田空港発のBOAC機で出発される。

なお真宗大谷派連行住職で、国際委員である菅原恵慶師夫妻ならびに会長の随行として待局から可睡齊の松井憲考師、中村定典尼が訪中することになっている。

さき大河内隆弘、西川景文両師夫妻および中濃教導師の仏教使節が訪中されているが、このところ仏教を通じての彼我の交流がますますさかんになつて来ている。なお会長は約二週間中国に滞在し、日中両国の仏教による親善をふかめられることになっている。

田宮師八月下旬

ビルマ仏教研究に出发

既報のとおり、田宮龍友師(新潟市附舟町浮洲山興禅寺住職)は南方仏教、特にビルマ仏教研究の目的で渡航することになっているが、過日全仏国際局を訪れ、来る八月二十三、四日頃、横浜港発の英国船P&Oライン「イングリランド・キャセー号」で出発することに内定した。田宮師は約半年ビルマに滞在し、ラングーンに滞在して修行するが、出来ればこの短期間の中に沙弥式から比丘式まで終らせたいと云っている。

なお、僧院で修行ののちは、ビルマ各地の戦跡行脚に出かけ、多数の彼我の霊を吊つて来ると云う全仏国際局では、現在ビルマ入国はかなり難かしいので、在日ビルマ大使と会ってスムーズに入国出来るように取計らうようにしたいと云っている。

インド、ネール首相の急逝 平和の巨星“墜つ”

全仏などが追悼会を開催す

アジア最大の政治家としてでなく、ひろく仏教に対し非常に理解が深い印度首相ジャワハル・ネール氏が急逝された。正に巨星墜つの感が深い。故ネール首相は、印度大菩提会のパトロンとして同会を強くバックアップされ、特に仏跡の復興再現には異常な熱意を示され、巨額の予算を計上して四大仏跡をはじめとして各村の聖跡の修築復興につとめられた。

また政務のかたわらヒンズ教、マホメット教と仏教の相互理解のためのかげ橋となつて活躍され、遺跡の仏教徒側への返還等にも尽力されたことは、我々仏教徒にとつて感激に耐えないことである。

又、一九五八年秋には令嬢インデiraガンジー女史を伴つて来日され、政治情勢を視察ののち、特に東、西両本願寺をはじめ各宗本山を訪れ日本仏教界の各リーダーと懇談しついで印商国の親善に尽力され、また日本から仏跡巡拝のため訪印した際は、よろこんでニューデリーの首相官邸等で面会され、親しく宗教による平和問題をその都度力説されていた。ネール首相は生前平和は宗教の力であると云う点を、あらゆる場においてアピールされてきた、全たくの平和の使徒であった。貧困と文盲の印度の復興にその一生を捧げられた氏、世界の平和指導者として「平和五原則」を提唱された氏、巨星

のこした足跡はあまりにも大きい。正にアジアではない、世界的損失である。享年七十四歳であつた。

全仏では直ちにニューデリーの首相官邸あてに次のような弔電をおくり、五月廿八日午後三時には、会長高階彌仙禪師、中山国際局長ら数名が、悲しみにつつまれる東京の印度大使館を訪れ、おくりの弔電をのべた。

「ネール首相の急逝されたとの悲報に接し、全日本仏教徒を代表して深く哀悼の意を表します。全日本仏教会長高階彌仙」

なお全仏、日印協会、日印文化協会では、六月八日午後五時三十分より、東京有楽町読売ホールで「ネール首相追悼会」を開催し、追悼の辞が池田首相、一万田日印協会長、高階全仏会長、中村日印文化協会長の順で述べられ、ラルヂメロトラ駐日印度大使の閉会の辞で悲しみにつつまれた追悼会を閉じた。

ワリシンハ氏帰国の途に

来日中の印度大菩提会事務総長D・ヴァリシンハ氏は五月廿一日午後五時三十分羽田発の印度航空機にて帰国されたが、その前日全仏主催の歓送会が東京音羽の護国寺で開かれ、ダルマパーラ記念事業に強く協力を懇請した。

ダルマパーラ記念事業 献金者感謝録(第一回分)

現在までにダルマパーラ生誕百年記念事業に左記の各位から献金がおくられております。(順不同敬称略)

- 1 金七十六万円也 孝道教団岡野正道夫妻殿
- 2 金四十万円也 孝道教団中沢登米三夫妻殿
- 3 金十一万五千円也 岡野正道師の募金分
- 4 金壹万円也 東京 今枝善海師
- 5 金二千元也 東京 高橋師
- 6 金五万円 東京 田中車一郎氏
- 7 金壹万円也 京都 牧野ます氏
- 8 金五万円也 京都 山田無文師
- 9 金参万円也 寝屋川市 川嶋貞子氏
- 10 金二千元也 金沢市 安井氏
- 11 金二千元也 東京 三田三郎氏
- 12 金二千元也 東京 岩島氏
- 13 金二千元也 仙台市 佐藤たつ氏
- 14 金二千元也 仙台市 渡辺しようじ氏
- 15 金二万円也 大津市 清田寂坦師
- 16 金二千元也 福岡市 原氏
- 17 金二千元也 大阪市 滝野三郎氏
- 18 金十万円也
- 19 東京 藤井日達師 金三千元也
- 20 大阪市 佐藤ゆき子氏 金五万円也
- 21 浜松市 建部快連師 金壹万円也
- 22 東京 増永靈鳳師 金二千元也
- 23 中川師 金二千元也
- 24 日立市 かうらい氏 金七千五百円也
- 25 京都市 木村氏 金五万円也
- 26 東京サンヨー電機K・K殿 金二千元也
- 27 原氏 金二千元也
- 28 市川市 かの氏 金二千元也
- 29 日本・ガーナ協会 金壹万円也
- 30 東京 中田和子氏 金二千元也
- 31 東京 えびさわ氏 金二千元也
- 32 東京 山本杉氏 金二千元也
- 33 東京 赤松常子氏 金二千元也
- 34 東京 小島賢道氏 金二千元也
- 35 東京 平沼とみ氏 金二千元也
- 36 東京 山口貴美子氏 金二千元也
- 37 東京 中田和子氏 金二千元也
- 38 東京 石上氏 金二千元也
- 39 東京 名古屋氏 金二千元也
- 40 福井 白木氏 金二千元也
- 41 東京 野村氏 金二千元也
- 42 東京 上田花子氏 金二千元也
- 43 東京 海渡ふみ子氏 金二千元也
- 44 熱海市 米山久氏 金壹万円也
- 45 東京 船口暉子氏 金五千元也
- 46 浜松市 平松氏 金六千元也
- 47 セイロン ワニガセカラ氏 金九千五百円也
- 48 国柱会におけるダルマパーラ記念祭の際に寄附される 金壹万円也
- 49 東京 しま氏 金壹万円也
- 50 愛媛 沢井信道師 金壹万円也
- 51 神奈川 柿沼信道師 金壹万円也
- 52 長野 松本弘雄氏 金参万円也
- 53 千葉 角田虎吉氏 金千円也
- 54 京都市 村上慈海師 金五万円也
- 55 東京 野生司氏 金壹万円也
- 56 川越市 塩入亮忠師 金五千元也
- 57 東京 塩入亮達師 金五万円也
- 58 東京 日本山妙法寺殿 金壹万円也
- 59 東京 平沼とみ子氏 金壹万円也

(38・5・20現在)

